**参考資料**

2024年度(第11回)助成決定案件の概要

|  |  |
| --- | --- |
| 助成対象先 | 事業の概要 |
| よねざわちほう  米沢地方森林組合  （山形県）  事業実施面積　　33ha | 事業名：南陽市秋葉山山火事からの超回復プロジェクト |
| 令和６年に発生した南陽市秋葉山における森林火災で焼失した122haに及ぶ森林については、全域が山形県県南県立自然公園に指定されており、その再生に関して制限があることに加え、民有林については所有者の意識も低く、境界もわからない箇所も多い。  そこで、本事業では、境界明確化を行い所有者の確認等を行うとともに、エリアを自然公園の機能を発揮させる箇所、林業としての活用を目指す箇所等、制限内容や有識者の見解も踏まえたゾーニングを実施する。さらに、南陽市と連携し小学生や市民へ本事業の普及啓発活動を行うことで、将来にわたって市民に親しまれながら活用できるような、森林の持つ多面的機能が高度に発揮される秋葉山の再生を目指すことを目的とする。  （申請の背景等）  秋葉山山火事で焼失した森林の構成は、アカマツ人工林と里山二次林の天然生林で、アカマツについてはマツクイムシ被害の蔓延により荒廃、天然生林も積極的な整備は行われていなかった。本事業は、山火事からの再生を第一としながらも、自然公園としての機能を念頭に置き公園機能を発揮する「公園林」、山形県の黒炭生産の過半を占める南陽市の広葉樹材を活用しながら持続的整備を行っていく「生産林」、植生や生態系などの環境的要因を優先する「環境林」としてゾーニングし、植樹イベントなどを通じて多くの方々に森林再生の取組みや森林整備の必要性等を学ぶためのフィールドとして整備することを目標として、今回の申請に至ったもの。 |
| でわしょうない  出羽庄内森林組合  （山形県）  事業実施面積　　　　15ha | 事業名：共同施業団地化による路網整備と循環型森林施業の構築(３年間事業) |
| 当組合の管轄地域には豊富な森林資源があるにも関わらず、主要な路網が少なく木材搬出が困難で林業採算性が低いことから、積極的な森林施業が行われず荒廃している。  本事業は、同様の問題を抱える市や推進機構が管理する山林を共同施業団地化することで、より効率的な路網配置の計画を作成し、大型トラックが通行可能な林業専用道(規格相当)を整備、地域全体の搬出間伐などを促進し、土砂流出防備など山林の持つ公益的機能の維持・回復と木材資源の有効活用を図ることを目的とする。  （申請の背景等）  対象区域の人工林の大半は間伐が必要な状況にあるが、大型トラックが走行可能な路網が少なく、林業採算性が低いことから森林施業が進んでおらず、住民も当地域から離れた市内に移住、森林への関心も薄れ管理が行き届かない山林が増加している。本事業は、路網改良等の調査設計から補助事業を活用した事業実施までに期間を要することから、３年間の事業として、集約化施業による持続可能な林業経営を目指すため、今回の申請に至ったもの。 |
| ぬながわ森林組合  　（新潟県）  事業実施面積　　　　7ha | 事業名：公図未整備地区における荒廃民有林「東中千本スギ」再生事業 |
| 事業対象地である新潟県糸魚川市の通称「東中千本スギ」地区は、名前のとおりかつては、地域住民から期待される林業地域であったが、所有者の山離れや境界が不明になるなどして荒廃化した。  当組合は、2024年度事業において、現存する和紙図の調整・解析に基づく森林地番想定図の作成を通して、所有者の合意形成を図ってきた。本年度は、整備したデータをもとに、勾配が緩く崩れにくく、かつ維持管理も含め低コストな林業専用道や森林作業道の路網整備等を行い、木材生産機能など森林の多面的機能の回復を図り、荒廃林を再生し、地域の持続可能な森林管理の仕組みを作ることを目的とする。  （申請の背景等）  本事業地は、林道等の路網が未整備で補助金を活用した森林整備ができず、長期間放置され、森林の多面的機能の低下により、渓岸が不安定化し山崩れなどのリスクが高まってきている。加えて、公図未整備かつ別地域の飛び地も数多く混在するため、森林経営計画の策定が長年見送られてきた地区である。そこで、本事業では、航空レーザー計測などを用い境界明確化を図るとともに、路網開設や維持管理コストの削減も念頭に置いて事業採算性を改善しながら、未利用の枝葉についての活用策の検討も含め、将来の間伐・主伐による所得拡大を両立できるモデルを再構築する足掛かりとするため、今回の申請に至ったもの。 |
| みなみつる  南都留森林組合  　（山梨県）  事業実施面積　　　　14ha | 事業名：「提案型集約化施業を軸とした森林サービス産業」による森林経営のモデル構築事業 |
| 当組合では提案型集約化施業を軸とした森林整備を進めているが、整備完了後の森林の継続的な維持管理が課題となっている。  本事業では、施業の際に開設した森林作業道や、木馬道、赤道など森林に眠っている古道を地域資源として掘り起こし、社会的にニーズが高まってきているマウンテンバイクコースとしての「森林利用と維持管理」を他団体連携の中で高度に融合させるとともに、水源かん養や土砂流出防備といった公益性に最大限配慮した持続的な森林利用を進め、森林所有者の森林への関心・森林経営への意識を高めていくことを目的とする。  （申請の背景等）  日本各地の里山では、小規模面積所有者が多数を占めているために森林の適切な管理が難しく、森林資源の利活用が進んでいない状況にある。また、地域の森林整備を担う林業事業体の努力だけでは対応が限界となっている状況もみられ、森林所有者の森林に対する関心の低下と相まって、地域森林の荒廃を招く一因となっている。一方、マウンテンバイク愛好家による里山の利用を望む声は多いものの、小規模所有者が多数を占める地域においては、所有者情報の取得、所有界確定、利用の同意取得などが困難な状況である。  本事業では、地域の様々な団体と密接に連携し、集約化施業実施後の森林を経済的に二次利用していくことにより、管理不足の森林の効果的利用および積極的な維持管理が進んでいくことを期待して、今回の申請に至ったもの。 |
| いっぱんしゃだんほうじん  やまとしんりんかんりきょうかい  一般社団法人  大和森林管理協会  （奈良県）  事業実施面積　　8ha | 事業名：次世代の吉野林業を新たに構築する－ウィッセン集材機の活用－ |
| 事業対象地である吉野林業地域においては、これまで主流であったヘリコプター集材は縮小傾向にあり、近年作業道開設の導入も図っているが、その適地は限定的で開設に時間を要することもあり、架線集材の復活が望まれている。  本事業では、奈良県庁が導入したスイスのウィッセン集材機を活用して、吉野林業に適した架線集材法を導入するとともに、その担い手を育成し、吉野郡内への普及等を通じて吉野林業を新たに構築することを目的とする。  （申請の背景等）  吉野林業は、かつては「密植・多間伐・長伐期」を特色とし、80年から100年生で皆伐というサイクルが設定されていた。しかしながら、需要の低下等から伐期が延長された結果、山林の超高齢級化が進みつつあるが、山林所有者の皆伐への拒否感も根強いものがある。  このため、本事業により、伐期のない「択伐林型」へ誘導していくことを森づくりの基本的考え方として、公益性発揮につなげるとともに、多面的機能の高度発揮に寄与することなどを期待して、今回の申請に至ったもの。 |
| 沖縄県森林組合連合会  （沖縄県）  事業実施面積　　　　28ha | 事業名：慶良間諸島のリュウキュウマツ保全・活用を目指す  ～スマート林業を活用したマツ林の保全と活用モデル事業～(２年間事業) |
| 令和３年に慶良間諸島西方の久米島町で確認された松くい虫被害は急速に拡大し、防除作業は行われているものの、被害の低減は難しい状況にある。事業地の渡嘉敷村、座間味村には今のところ松くい虫被害は入っていないが、小さな自治体であり、松くい虫被害の適正な監視や防除の迅速な初動対応が課題である。また、両村ではリュウキュウマツ漏脂胴枯病被害が確認されており、その被害対策が求められている。  このため、本事業では、枯損木調査、漏脂胴枯病の被害木駆除を行うとともに、地域住民が主体となり、松くい虫被害監視活動ができるよう普及啓発を行う。加えて、貴重な材としてニーズの高いリュウキュウマツについて、離島から伐採・搬出・販売するスキームを確立し、マツ林の保全と活用を両立させるモデルを構築すること目的とする。  （申請の背景等）  当該地域では、１２０年以上前に始まった鰹節生産の鰹節の焙乾のためにマツ造林が推進されており、鰹節生産は６０年前に終了したが、伐期に達したマツ林が貴重な森林資源となっている。久米島町に侵入した松くい虫被害の状況に鑑みると、その監視による侵入防止や初動対応は、島民の健全な生活環境を支えるうえでも大変重要である。そこで、本事業では、地域住民とともにマツ資源の保全を図るとともに、今後の資源の有効活用により、持続的な森林の管理と利用の両立を目指すため、今回の申請に至ったもの。 |